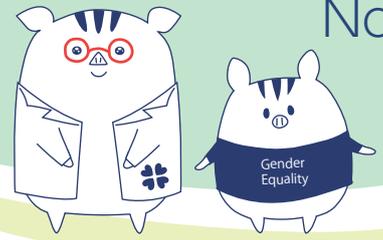


ジェンダー平等 推進部門 便り



2024年3月29日発行

神戸大学インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンタージェンダー平等推進部門 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 Tel: 078-803-5471 /5017

開催報告

1

令和5年（2023年）度 神戸大学トップマネジメントセミナー開催報告

名古屋大学副総長（多様性・男女共同参画担当）、生命農学研究科教授東村博子氏を講師にお迎えし、「大学活性化戦略としての女性研究者支援—名古屋大学の取組紹介も含めて—」と題したトップマネジメントセミナーを令和6年2月8日（木）15:00～16:30に開催しました。藤澤学長をはじめ役員、部局長、教職員合計114名が参加しました。（後日オンデマンドで12名が視聴）。

講演では、前半に日本における女性活躍の現状（ジェンダーギャップに関する課題）、女性活躍推進が組織の活性化戦略にとって、また個人の幸福度や研究力を向上にとっても有効であることをデータを引用しながら説明いただきました。後半は東村氏が長年牽引されてきた名古屋大学の取組である、学内保育所および学童保育所、女性リーダーを育成するための顕彰や執行部への登用制度等が紹介されました。

講演後の質疑応答では、「女性の就業継続においては保育施設等の充実とともにゆるやかなネットワークが必要であり、親身になって考えてくれる人がいれば頑張れるもので、女性を孤立させないことが重要である」、「若い人は育児に関わりたくないという方も多いので男性への意識改革も同時に展開していくことが効果的ではないか」といった、長年女性研究者支援に取り組んでこられた東村先生の経験に基づく回答は、本学の取組を検討していく上で有効な視座をいただく機会となりました。

参加者の92.1%が「とても有意義だった」「有意義だった」と回答し、セミナーは大変好評でした。また、アンケートから神戸大学においても実施すればよいと思われる取組として、以下の取り組みへの期待が大きいことがわかりました。

- ・学内保育所設置等の育児と仕事の両立支援（64.2%）
- ・無意識のバイアスに関する研修（53.1%）



女性活躍を大学の活性化につなげるために必要なこととして、以下のような意見が寄せられました

- 誰でも17:15に終業できるよう、会議は減らす等の方策を検討する。
- 若手女性教員の積極的採用
- 研究をサポートする人材の配置
- 理事に女性教員を配置
- 目標の設定、構成員の理解（部署内での協力体制、一致団結）
- 女性の意見を反映することができるシステムの構築
- 男女にかかわらず、平等が当たり前という意識が基本となる大学環境を作る
- 学童保育、追加での保育所の設置。
- 女性研究者の配偶者に、同年代の研究者が多いことから、その方への支援も必要ではないか。
- このようなセミナー（もしくは育児休暇から復帰した教職員の意見を共有できるような場）を定期的に開催するなど継続的に意識する・意識させるための仕組み
- 目標値の設定とその義務化

令和6年3月4日(月)13:30-15:45に、2023年度神戸大学ダイバーシティフォーラム「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業総括シンポジウム」をオンラインで開催しました。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」事業は2023年度で最終年度となり、事業成果の報告と総括を目的として開催しました。

フォーラムでは、藤澤学長の開会挨拶、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室長・高見暁子氏の来賓挨拶に続いて、本事業の成果について奥村理事から報告されました。さらに、本事業の国際外部評価委員会・Saniye Gülser Corat 委員(元ユネスコ男女共同参画推進局長)のビデオメッセージの紹介(下部URL内参照)、国際外部評価委員会・三成美保委員長から、「ダイバーシティ&インクルージョンの視点からみる神戸大学の課題」と題した講演が行われました。

講演の中で、三成委員長から「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」事業で掲げた目標全てが達成したわけではないが成果はあがっている、国際共同研究を支援する取組は次世代の研究者に勇気をあたえるものとなっている、「多様な性・ジェンダーに関するガイドライン」を公開している、ことについて評価をいただきました。一方で、学生と教員における女性比率の乖離が大きい、女性理事がいない、統計におけるジェンダー分析が不十分である、といった課題が指摘されました。休憩を挟んだ後半では、国際共同若手研究者養成プログラムを実施した近藤民代教授、国際共同研究PIプログラムを実施した山口裕子准教授、人事交流プログラムを実施した橋野知子教授から、プログラムの成果が報告されました。

ここまでの発表を踏まえた質疑応答では「国際共同研究を実施するにあたってどのようなサポートが有効だったか」という質問がだされました。これに対してプログラム派遣者から、「職場の人が相談にのって励ましてくれたことが長期間の派遣プログラムに申請する後押しとなった」と述べられました。「女性教員が活躍できる環境整備に向けて必要なことは」という質問に対しては、「会議の見直し(研究時間が奪われる)」、「態度、認識、思い込みのレベルでバイアスがないかを各人が問い直すこと」、「周りにいる少し上の世代が生き生きと仕事をしている姿を見せる」といった意見が述べられました。

最後に、ジェンダー平等推進部門・野田和恵部門長による閉会挨拶で本フォーラムを終了しました。

なお、本フォーラムのオンライン参加者はパネラーを含めて54名(オンデマンドで16名が視聴)で、参加者の89.5%が「非常に有意義」、「有意義」と回答し、フォーラムは好評でした。アンケート結果の詳細は部門HPをご参照下さい。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)事業

- 事業の成果 -

- ◆在籍比率 17.6% (事業開始前)
→19.2% (2023年10月1日現在)
- ◆本プログラムでの支援者 24名のうち7名が昇任(他機関へ移動も含む)

参加者からの感想

- 三成先生の講演の中で、神戸大学で女子学生がかなり多いにもかかわらず、女性教員が少ない学部が複数見られる旨のご指摘があり、女性教員を増やすことの難しさを改めて認識した(教員)
- 今が当たり前ではなく世界はどんどん前に進んでいます。というよりも人口の半分は女性です。これからは女性の活動を得ない限り日本の将来はありません(卒業生)
- 組織的な改革の動きとともに、やはりトップダウンで執行しないとなかなかうまく進まないのではと感じました(職員)

今後取り上げてほしいテーマについて

- 女性教員を増やすためには、まずは女子学生に博士課程後期課程に進学してもらうことが肝要であると考えます。博士課程後期課程の修了生、在学学生、博士課程前期課程の学生を対象としたディスカッションの機会が有益だと思う(教員)
- 教員だけでなく職員についてもとりあげてほしい。(職員)



開催報告 3

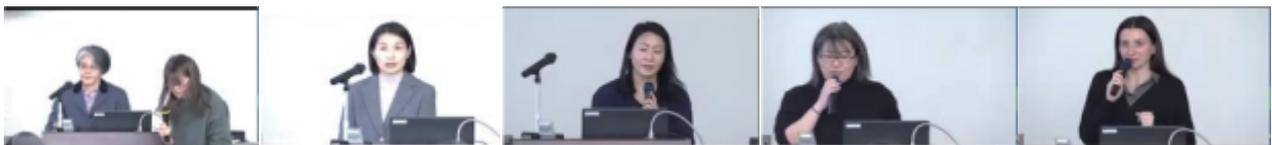
国際共同研究成果発表会

国際共同研究成果発表会を、令和6年1月16日(火)13:00-14:45に瀧川記念学術交流会館2階大会議室で開催しました。ジェンダー平等推進部門が実施している「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端



型) 事業の一環で実施している国際共同研究PI養成プログラム及び国際共同若手研究者養成プログラムを利用された5名の女性教員((林 美鶴先生(内海域環境教育研究センター)、全 昌勤先生(システム情報学研究科)、足立 直子先生(バイオシグナル総合研究センター)、犬伏 祥子先生(医学研究科)、リミノッチ ミケーラ先生(法学研究科))による「令和5年度 女性研究者国際共同研究 成果報告会」を実施しました。対面で13名、リモートで24名の計37名が参加し、研究の内容に関する質疑や国際共同研究を実施した体験やオンラインで共同研究を実施する際のメリット・デメリット等が紹介されました。国際共同研究を終了された先生方の成果報告会は今後も定期的に開催する予定です。アンケート結果は以下をご参照ください。

https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/diversity/activity/report_seminar/images/2023/d_activityreport20240116.pdf



開催報告 4

令和5年度第2回ロールモデル交流会

令和6年1月16日(火)14:45-16:15に瀧川記念学術交流会館2階大会議室で開催しました。博士課程の学生を含む若手女性研究者の裾野拡大の一環として、「令和5年度第2回ロールモデル交流会 女性研究者と話そう～社会科学系編～ -本音で語る研究者としてキャリアをつみあげていくには-」をハイブリッド形式(オンライン・対面併用)で開催し対面で12名、リモートで11名の計23名が参加しました。まず、研究者というキャリアパスを考える機会となることを目指して、本学の社会科学系女性教員2名から、キャリアに対する考え方、職場や家族、友人、研究仲間との関係作りやその変遷、子育てと研究の両立や今後の研究者生活などに関してこれまでの経験を踏まえた講演が行われました。さらに子育て中の男性教員からのコメントを頂いた後、参加者からの質疑応答を行いました。また、参加者相互の交流を図るために、16:15-17:00に同所で懇親茶話会を行いました。すでに実施した自然科学系、社会科学系以外の分野も含めて今後も継続してロールモデル交流会を実施する予定です。アンケート結果は以下をご参照ください。 https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/diversity/activity/report_seminar/images/2023/d_rolemodelreport20240116.pdf



◆ FD1 2023年11月9日～12月31日に数理・データサイエンスセンターで開催

「ダイバーシティ教育プログラム」(オンデマンド教材)を使って実施しました。「日本における男女共同参画の進捗状況」「女性活躍推進の目的」「男女ともに働きやすい職場づくり」「求められるリーダー像」から構成されており、視聴された方から「男女共同参画に関する用語や考え方の知識が深まった」「学内の支援や制度についての理解が進んだ」といった意見が寄せられました(参加者9名)。

◆ FD2 2024年2月21日(13:00～13:30)に経済学研究科で開催

国際文化学研究科 工藤晴子先生に講師をお願いし「大学における多様な性・ジェンダーの認識と尊重」というタイトルでFDを実施していただきました。「『神戸大学における多様な性・ジェンダーに関する基本方針とガイドライン』について」、「セクシャル/ジェンダー・マイノリティに関する用語の整理」「授業と学生とのコミュニケーション。ハラスメントをしないにはどうしたらよいか」「相談されたら?」について事例もまじえながら説明いただきました。当日参加された方からは、「権力に自覚的であること」「知識のアップデートの必要性を痛感した」といったコメントが寄せられました(参加者45名)。

R6年度も引き続きFD研修を実施します。ご希望される部局は連絡ください。

令和6年度「国際共同研究者養成プログラム」の募集について

募集締切：令和6年4月30日(火)

募集要項については、各部局へ通知しています。対象者は、「准教授、講師、助教の女性研究者(特任・特命・特定も含む)で、国際共同研究に参加できる、又は組織できる者」です。奮って応募いただきますようお願い致します。

—お・知・ら・せ—

◆ 多様な性・ジェンダーに関する相談窓口のご案内

ジェンダー平等推進部門では、神戸大学構成員の皆様の多様な性・ジェンダーに関する相談に対応しています。ご相談は、こちらのQRコードから。

多様な性・
ジェンダー
に関する
相談窓口



◆ 多様な性・ジェンダーに関する研修動画のご案内

神戸大学 ICHC センター 多様な性・ジェンダーに関する構成員向け研修作業部会が、「多様な性、ジェンダーに関する研修 知識と理解編～多様な構成員が活躍できる環境づくりをめざして～」を制作いたしました。学内限定で公開しています。ぜひご活用ください。

多様な性・
ジェンダー
に関する
研修動画



◆ ダイバーシティ教育プログラム動画のご案内

ジェンダー平等推進部門では、男女共同参画の推進に向けて教育プログラム(eラーニング)を作成しました。学内限定で公開しています。ぜひご活用ください。

ダイバー
シティ教育
プログラム
動画



ジェンダー平等推進部門にご意見・ご要望がありましたら、ホームページのお問い合わせからご意見箱を使ってお送りください。みなさまからのご意見・ご要望お待ちしております。

ジェンダー平等推進部門HP <http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/>